

産業・観光振興調査特別委員会会議記録

産業・観光振興調査特別委員会委員長 福井 せいじ

1 日時

平成27年4月15日（水曜日）
午前10時2分開会、午前10時23分散会
（うち休憩時間午前10時8分～午前10時11分）

2 場所

第3委員会室

3 出席委員

福井せいじ委員長、後藤完副委員長、工藤勝子委員、嵯峨壱朗委員、郷右近浩委員、
岩渕誠委員、渡辺幸貫委員、工藤勝博委員、高橋但馬委員、木村幸弘委員、
清水恭一委員

4 欠席委員

なし

5 事務局職員

坂下担当書記、田中担当書記

6 説明のために出席した者

なし

7 一般傍聴者

なし

8 会議に付した事件

- (1) 委員席の変更について
- (2) 委員会の意見の取りまとめについて

9 議事の内容

○福井せいじ委員長 おはようございます。ただいまから産業・観光振興調査特別委員会を開会いたします。

これより本日の会議を開きます。本日は、お手元に配付しております日程により会議を行います。

初めに、委員席の変更についてお諮りいたします。今回議員の辞職に伴う諸般の事情により、委員席につきましては現在御着席のとおりとしたいと思っておりますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○福井せいじ委員長 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

次に、2、委員会の意見の取りまとめについてを議題といたします。当委員会は、本日

の委員会が最終の委員会となろうかと思えます。つきましては、委員会がこれまで調査してまいりましたことについて、6月定例会で報告を行うこととなりますので、この際意見の取りまとめを行いたいと思えます。お手元にこれまでの調査経過を取りまとめた資料と報告の骨子案を配付いたしておりますが、取りまとめに当たり何か御意見はありませんか。では、3分ほど時間をとりたいと思えます。

時間をとりましたけれども、骨子案をお読みいただきまして御意見を伺いたいと思えます。いかがでしょうか。

○**後藤完委員** 3ページ目の委員会の意見として、県当局に対し今後の国際競争力の高い産業振興とあるのですが、これは具体的にどういったことを指すのでしょうか。国際競争力を高めるのは結構なことではありますけれども、内部の農林水産業の振興が本当に大丈夫なのかということが懸念されるわけでありまして、その点に関してどういう意味をなすかということだけお知らせください。

○**福井せいじ委員長** 委員会の意見として、「県当局に対し今後の国際競争力の高い産業振興」、そしてまた(3)、「国際競争力の高いものづくり産業」というところがあるということですが、どういうことかということですが、

休憩します。

〔休憩〕

〔再開〕

○**福井せいじ委員長** 再開します。

それでは、文章の整理についてはお任せいただいてよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○**福井せいじ委員長** ほかにございますか。

○**渡辺幸貫委員** 特に農業では、「6次産業」という言葉があちこちに出ているのですが、私は6次産業がこんなに効力があるとは思いません。確かに米などはだめなのだけでも、品目などいろいろなことを考えても、6次産業まで発展できるのかということ、各項目でそんなに期待できるのだろうかと思いました。

例えば1の委員会の開催状況のところにも下から2行目に6次産業でしょう。2の現状のところにも6次産業は上から4行目、6行目、7行目にもあるでしょう。その次にもまたあるでしょう。

○**福井せいじ委員長** この委員会のテーマとして、6次産業ということが言葉として出ているのです。

○**渡辺幸貫委員** 6次産業の取り組みなのだろうけれども。

○**嵯峨亮朗委員** 6次産業はそれでいいけれども、6次産業をやれば何でもいいというわけではなくて、6次産業の課題的なものも指摘すべきだろうと。6次産業でうまくやっているとところはほとんどありませんよね。そういうことも入れなければだめではないかということではないですか。

○渡辺幸貫委員 6次産業が全てを解決するみたいにとりがちな感じを受けるので、そんなに入れなくてもいいのではないですか。

○福井せいじ委員長 どちらかというそうではありませんでしたからね。

○渡辺幸貫委員 6次産業というのは厳しいです。馬路村のユズは確かにそうだけれども、国内でというか、我々の地域でも例えば米パンをつくるとか、いろいろなことやってますが、はっきり言ってどこでも大変です。変わったことをやっているから、表彰はされます。だけれども、採算をとるのは難しいです。本当に食材を生かせるようになるというのが6次産業なのだろうかとは思いますが。何カ所か出てくるのは構わないけれども、こんなに出てくると6次産業が解決策のような印象を受けるのではないかと思います。

○工藤勝子委員 6次産業というのは、馬路村のユズのように、つくる人、加工する人、販売する人、この辺のしっかりした業界、農業協同組合でもいいですけども、そういう形の中で役割分担を明確にしていけないといけません。農家の人たちがつくったほかに加工して販売するという6次産業というのはなかなか難しいです。何かをつくって産直で売り出す分ぐらいだったら可能ですけれども、それ以上に企業として成り立っていく部分ということになってくると、生産者は生産者で専門に物をつくる、それを受けて加工は加工のそういう専門の人たちがつくるといって、きちっとした役割分担が必要です。そして、つくったなら、そこも販売するみたいな形のを明快にしていけないと、この6次産業というのは成功していかないのではないかなと思います。

○嵯峨耆朗委員 まとめにするとすれば、調査の結果、こういった6次産業化は理想的ではあるが、実現していくのは難しいということもわかったなど入れればいいのではないですか。本当に、手放しでいいというわけではないのだから。

○渡辺幸貫委員 政府は、第一次産業の人が6次産業化しないのは努力不足だというような言い方をしています。そういうことで、6次産業を目指すのだというのだったら、第一次産業の人はかわいそうですよね。成功しているのは、ユズもそうだけれども、例えばポテトチップの世界で、土幌町などは農協でたくさんジャガイモをつくってきて、それでポテトチップをつくって、コイケヤやカルビーなどと、ラベルを張って出す。それぐらいだったらなるほど、それはすごい6次産業だと思うけれども、今工藤勝子委員の言われたような、ちょっとその辺の産直で販売するくらいでは、所得向上までは難しいです。要するに、最近の農業に対する施策を見ていると、工夫して、自助努力で所得を確保しろと言わんばかりです。だから、これをずっと突き詰めると、第一次産業の人たちはそのところが足りないからだめなのだなと、何となく思います。

○福井せいじ委員長 6次産業について、ほかに御意見ありますか。

○工藤勝博委員 確かに現状の農業の生産を見ると、米に始まって、単発の生産だけではとてもではないが所得を確保できません。そういう中で、やっぱりこの6次産業というのは、規模によってやり方は違って来るのだけれども、生産から販売までやっている農家の人は、実際に元気な人が多いです。さっき工藤勝子委員が言ったように、産直に出荷しな

がら、例えば1日1万円分売っていますよという人たちも結構います。そういうモデルケースを今回の委員会でも何か所か見ているわけですが、それはそれで報告の中で当然上げて、こういう方法もあるよということを示すべきだと私は思います。

○**嵯峨孝朗委員** 要するに、こういった意見があったことを載せればいいのではないですか。そういう6次産業でうまくやっているところもあるだろうし、実際に多くの農家ではそこまでの実現は難しいという指摘もあるし、現状もそうだったということを報告書に載せればいいのではないですか。

○**岩淵誠委員** 6次産業化の捉え方をどうするかによって見方が大きく変わるのであって、第一次産業の生産者が6次産業化までの全部の主体になることのみを6次産業化というのか、それともいわゆる農商工連携という中での6次産業化。はっきり言えば両方ありなわけで、大事なことはそれぞれの範囲を大きくしていくということであって、頭から6次産業化全部を第一次産業に従事している人がやるのは無理だという話でもないし、その辺の認識をきちっとしていれば、それは書き込み方であって、殊さらに否定するものでもないし、殊さらに賞賛するものでもないと思います。

○**渡辺幸貫委員** 単純に何度も出てくるねという意味です。今岩淵誠委員が言ったように、そういう人もいるのです。だけれども、ここに何度も出てくるということは、6次産業が解決策だと何となく思わせるなと感じるということを行っているのです。だから、これほど出てこなくていいのではないですかということ。6次産業は、一つの解決策としてはいいので、どこかに整理すればいいのではないですか。

○**岩淵誠委員** 私は、出てきたからといって、それが解決策の全てとして報告されるものではないと思いますし、この調査特別委員会自体が6次産業化についてどうするかということ調査したわけでありますから、調査の頻度と内容からして6次産業化ということが頻繁に出てくることはやむを得ないと思います。報告書をよく読めば、6次産業化の部分が全ての解決策になっているというわけでもないで、ここは殊さら足したり減らしたりということは必要ないのではないかなという気はします。私はこれを読んでも、6次産業化が全ての解決策だという印象は特に持ちませんけれども。

○**福井せいじ委員長** ほかの委員の方はいかがですか。

〔「一任します」と呼ぶ者あり〕

○**福井せいじ委員長** 確認しますけれども、今皆さんのお話の中で、6次産業化という言葉と、農商工連携という言葉も出てきたのです。それから、最初の調査に行ったときに、渡辺幸貫委員から産地化という言葉も出てきたのです。産地化、農商工連携、それからこの6次産業化というのは、求めるものは同じなのだけれども、実は立っている場所が違うということもありまして、本来はこの辺も整理すべきだったのかなとは思っていました。ただ、今回の調査は非常に多岐にわたってまして、6次産業化についてももう一度振り返っていただきたいのは、行ったところは京都の八百一の郷、松ぼっくりさん、そして最後の馬路村です。これについても、それぞれ6次産業化の捉えるイメージも違ったなとい

う部分が皆さんもあると思います。この辺を整理して書いてみようと思いますので、当職にお任せいただいてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○福井せいじ委員長 本来は、こういった議論を突き詰めていったほうがよかったのかなと思いますが、この委員会は非常に多岐にわたっていますので。6次産業化については、お任せいただいて、修正してみたいと思います。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○福井せいじ委員長 ほかに何かありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○福井せいじ委員長 それでは、6次産業化の取り扱いについては当職に御一任いただきたいと思います。

それでは、先ほども申し上げましたが、本委員会の調査は本日をもって最後になろうかと思しますので、御挨拶をさせていただきます。

本当にありがとうございました。平成25年の9月定例会において設置されて以来、本日に至るまで付託事件につきまして終始熱心に調査を積み重ねていただきましたことに対し、心から敬意を表する次第であります。先ほど申し上げましたように、当委員会に付託された案件は非常に多岐にわたっております。農業から国際リニアコライダーまでというたくさんの方々の案件で、皆さんに対しても深く、広くお考えいただいたことをまずもって感謝申し上げます。委員各位の御協力によりまして、委員長の職責を無事果たしましたことに対しまして深く感謝申し上げます。そしてまた最後に表現については当職に御一任いただきたいということをお願い申し上げます。委員会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

以上をもちまして本日の日程は全部終了いたしました。本日はこれをもって散会いたします。

休憩中の発言

○嵯峨耆朗委員 どこからこの目標が出てきたかということをしやべればいいのだけでも。

○福井せいじ委員長 今調べます。

○坂下担当書記 これまで調査してまいりました中で、この国際競争力の高い物づくり産業というのは、なでしこ iwate の方々を呼んだりした部分の、どちらかというところと工業系の話の部分での国際競争力の高いものづくり産業ということでございます。6次産業等につきましては、地域資源型産業の振興という部分に入れてございました。

○福井せいじ委員長 農業振興ももっと必要なのですけれども、非常に範囲が広いものですから。よろしいでしょうか。

○後藤完委員 農業振興だって産業振興なんだけど。

○福井せいじ委員長 そうなのです。必要なのですけれども。

○郷右近浩委員 日本語として何か変ではないですか。

○岩淵誠委員 日本語としてはもう少し整理しないと……

○福井せいじ委員長 「今後の国際競争力の高い産業振興及び地域の資源を生かした観光振興等に」では日本語として変ですか。

○嵯峨耆朗委員 「今後の」の「の」をとれませんか。

○福井せいじ委員長 「の」をとりますか。

○嵯峨耆朗委員 今後「、」にすればいいのではないのでしょうか。

○岩淵誠委員 要はこれからの推進に当たってこういうことをやれという話をしているわけだから、「今後の」が前ではなくて後ろに来ればいいのではないのでしょうか。

○福井せいじ委員長 県当局に対し国際競争力の高い産業振興及び地域の資源を生かした観光振興等に関する今後の施策の推進に当たってと。どうですか。

○嵯峨耆朗委員 整理してください。